

BrightEyes

瞳を輝かせて

輝

農業の面白さは尽きない

長年農業に従事。昨年コンニャクイモの花を咲かす

後藤 守男さん(81)



▶▶▶プロフィール

ごとう・もりお 昭和4年生まれ。戦後の食糧難を背景に昭和22年、長野県から開拓のため三好村へ入植。その後、後藤さんはじめ開拓者が中心となって三好村開拓農業協同組合を設立。昭和47年の組合解散まで、地区会長などを務め農業基盤固めを推進。愛知用水建設時の役員を務め、通水にも尽力。過去に民生児童委員を2期務める。

おみ「こんやく」。1,000年以上の食用歴を持つ日本の伝統食品です。こんにゃくは、サトイモ科の作物、コンニャクイモをすりおろして作ります。今回は、長年農業に従事し、自宅の畑で珍しいコンニャクイモの花を咲かせた後藤守男さんを紹介합니다。コンニャクイモが花を咲かすのは植えてから4、5年後。しかしほとんどが食べごろの3年目には掘り出されるため、花が見られるのはまれなことです。「3月と11月に花が咲いたものがあり、珍しいので子どもたちに見てもらおうと、自宅近くの緑丘小学校へ持って

てきました。咲くとは聞いていたけど、実際に初めて見てびっくり。暖かく異常な気候のせいかな」と後藤さん。学校の玄関に置かれた珍しい花は、子どもたちの興味を引いて話題になりました。



ショウブに似た紫色の花(緑丘小学校撮影)

「コンニャクイモの栽培は大変です。春に植え、実が大きくなるまで3年以上。土の調整や肥料、水やりを気を配りながら丹念に育てます。2年目に種芋から生芋(きこ)という子どもの芋が発芽。そして3年目に親芋を掘ってこんにゃくを作り、生芋は植えて、同じ成長を繰り返します。「栽培には涼しい場所がよくて、乾燥に弱く、寒すぎると腐ってしまうのでわらをかぶせるなどしていますよ」と栽培方法を工夫しています。

「コンニャクイモをはじめ、農作物を作って60年の後藤さん。県や町主催の農産物の品評会では、スイカや白菜などで多くの賞を受賞し、農作物の品質向上に努めてきました。その後もあらゆる物の栽培に挑戦。長い農業生活で豊富な経験を持ちます。平成14年12月に一つの根にタケノコが13個ついたこともその一つで、当時各新聞で大きく紹介されました。「毎年農作物は気候などで苦労することもあります何が起きるか分からないから面白い。コンニャクイモの花もまた咲いたらいいですね」と瞳を輝かせます。



▶▶▶プロフィール

ののやま・こうじ 昭和5年生まれ、74歳。趣味はグラウンドゴルフと野球観戦。グラウンドゴルフは毎週の練習に参加、地区や町の大会にも出場している。休日は農業にも取り組む。

みつけたみよしの
はつらっさん

のんびりマイペースに

野々山 耕治さん (三好丘)

10年前からシルバー人材センターの仕事をしている野々山さん。現在は三好ヶ丘地区にある13力所の公園管理の作業を週3日から5日行っています。「草刈りや木のせん定、グラウンドならしなどが主な仕事。仕事などでなるべく体を動かすようにしていますよ」と話します。また健康体操や健康講習会などにも積極的に参加して、健康づくりに生かしています。

野球が好きな野々山さん。以前は高校野球を、毎年のように甲子園へ観戦に行ったそうです。「孫とよくキャッチボールをして遊んでいます。でもいろいろ話しながら、野球を観戦するのはもっと楽しいね」とにっこり。「老人クラブやグラウンドゴルフなどにほとんど参加して、友達と話をしたり、体を動かしたりしてのんびりマイペースに過ごすのが一番です」と話してくれました。



がんばれ
みよしっ子

三好中学校

吹奏楽部

今回は三好中学校の吹奏楽部を紹介しましょう。顧問の石丸昌延先生と部長の久野晴代さんに話を伺いました。

「みんなとても仲良しです」と久野さんが話すように、笑顔を絶やさず明るく活動する吹奏楽部。6人がクラリネットやトロンボーンなど5つの楽器による心の通じ合ったハーモニーを響かせています。「今は2月の中部日本アンサンブルコンテストの地区大会に向けて、発表曲アレグロ・バルバの完成を目指しています」と意欲的に練習に励んでいます。

石丸先生は「時間を大切にして充実した活動をしてほしいですね。みんな自分に敵いやすいので、練習の成果を大会で発揮して、生きがいになるような活動になれば」と温かく見守りながら、曲の完成をサポートします。

「発表曲は難しいですが、本番に力を出し切って賞をとりたい。また来年は部員をたくさん増やしたいです」と久野さんは今後の抱負を話します。

